

二〇一五年五月一二日 開催

## シルク・ドウ・ソレイユの舞台裏

### クロード・ブルボニエール

(執筆〓矢頭典枝)

■ 講演者……クロード・ブルボニエール(シルク・ドウ・ソレイユ(ラスベガス)ディレクター)

■ 司 会……矢頭典枝(本学英米語学科准教授、グローバル・コミュニケーション研究所副所長)

■ 使用言語……英語(適宜、要約通訳あり)

■ 協 力……カナダ・ケベック州政府在日事務所

#### クロード・ブルボニエール(Claude Bourbonnière)氏紹介

カナダ・ケベック州生まれ。ケベック大学モントリオール校卒業(経営学)後、公認会計士(CPA)の資格を取得。その後、銀行勤務などを経て、シルク・ドウ・ソレイユ社の財務担当ディレクターに就任。在職中にフェニックス大学の経営学修士号(MBA)取得。東京デイズニールゾート内の常設ショーZEDのカンパニー・ディレクター(二〇〇八―二〇

一二年)に就任。現在、ラスベガスの二つの常設ショー——ZumanityとZarkana——のカンパニー・ディレクターとして、財務から企画まで全般的に社の経営を担う。

#### 〈講演要旨〉

はじめに

「日本語で)みなさま、こんにちは」。クロード・ブルボニエールです。最初に、この講演会を可能にしてくださったケベック州政府在日事務所の天野信巳さんと神田外語大学の矢頭典枝先生にお礼を申し上げます。お話に入る前に、シルク・ドウ・ソレイユがどのようなグループなのか、を知るための短いビデオをご覧ください。

(ショーの様子(二〇一六年日本公開の『トータルE.M』含む)、衣装製作やメイクなどの舞台裏の様子がわか

るシルク・ドゥ・ソレイユのプロモーション・ビデオを約一分間見せる。)

今、シルク・ドゥ・ソレイユのエッセンスを表した短いビデオを見ていただきました。不可能の限界を超え、想像を絶するパフォーマンスをお届けする「創造性」と「ショービジネス」が合体した集団―それがシルク・ドゥ・ソレイユです。

私は、一九九一年間、シルク・ドゥ・ソレイユの海外ツアーおよびモントリオールの本部で仕事をしました。二〇〇八年、東京デイズニリーゾートの『ZED』のカンパニー・ディレクターに就任しました。残念なことに、二〇一一年、東日本大震災と津波の影響もあり、撤退を余儀なくされました。日本には常設会場はもうありませんが、期間限定のツアーでショーを展開しています。二〇一二年、私はラスベガスに異



ブルボニエール氏

動になり、現在、ラスベガスの二つの常設ショー―ZumanityとZarkana―のカンパニー・ディレクターとして働いています。

### シルク・ドゥ・ソレイユの誕生と概要

すべては、カナダ・ケベック州の州都ケベック・シティの近郊にある小さな町、ペ・サン・ポール (Pate Saint-Paul) で始まりました。一九八〇年代の初め、この町のストリート・パフォーマンス者たちがグループを結成し、その大道芸で町の人々を魅了していました。そのグループのなかには、シルク・ドゥ・ソレイユの創設者ギ・ラリベルテ (Guy Laliberté) がいたのです。

一九八四年、「探検家ジャック・カルティエによるカナダの発見四五〇周年」を記念するイベントをケベック州政府が探していたところ、ギ・ラリベルテがサーカスを提案しました。このグループは「シルク・ドゥ・ソレイユ (Cirque du Soleil)」という名のもと、ケベック州政府の援助によりケベック州中で興行し、人気を博しました。こうしてシルク・ドゥ・ソレイユが誕生しました。

一九八四年創設当初、二〇名のパフォーマンス者を含め、従業員は七三名でした。現在では、約四〇〇〇名の従業員を有し、そのうち、パフォーマンス者(アーティスト)たちは約一〇〇〇名

で、世界五〇か国から来ています。二五もの言語が飛び交う多国籍企業です。ケベック州モントリオールの国際本部では約一五〇〇名の従業員が一〇〇種類以上の職種に就いて勤務し、従業員の平均年齢は三七歳です。

現在まで、世界中の約三〇〇もの都市で興行し、約一億人の観客を得てきました。二〇一五年は、世界中で一七のショーを行っています。昨年二〇一四年は一九のショーを行い、一五〇〇万人の観客を得ました。では、シルク・ドゥ・ソレイユの歴史がわかる短いビデオをご覧ください。

(最初に一九八〇年代初めのベ・サン・ポールにおける大道芸の映像と創設者ラリベルテの姿、その後、シルク・ドゥ・ソレイユ創設以降の様々なショーのビデオクリップが映し出される。)

### 世界中のショー

シルク・ドゥ・ソレイユには三つの部門があります。

まず、「ツェーリング・ショー (touting shows)」と呼ばれる部門で、これは次々と国を移動するショーです。Corteo、KOOZA、OVO、TOTEM、Amaluna、KURIOSなどのビッグ・トップ・ショーと呼ばれる大がかりなショーは、大都市を回り、一都市に二〜三か月留まります。

二つ目は、「アリーナ・ショー (arena shows)」と呼ばれ、

これは興行期間が短く、一週間くらいです。ヨーロッパを回った Quidam、北アメリカを回った Varekai がその代表です。

三つ目は「常設ショー (resident shows)」と呼ばれる部門です。現在、ラスベガスに八つの常設ショーが展開されています。一九九三年の Mystere に始まり、一九九八年に O、二〇〇三年に Humanity、二〇〇四年に KA、二〇〇六年に LOVE、二〇〇八年に CRISS ANGEL Believe、二〇一二年に Zarkana を展開してきました。もっとも新しいショーは、二〇一三年の Michael Jackson ONE で、これは同じ年に日本で上演された Michael Jackson The Immortal Tour とは別のショーです。

また、一九九八年より、フロリダ州のオーランドでも La Nouba という常設ショーが上演されています。

### 日本のショー

日本ではフジテレビとの提携関係により、早い時期から上演しています。一九九二年、Fascination というショーが東京を皮切りに七都市を回って以来、四か月で一八〇回上演しました。この二〇数年間で、Salimbanco、Alegria、Quidam、Drillon、Corteo、KOOZA、Michael Jackson-The Immortal Tour を上演してきました。昨年より日本各地で OVO が上演されており、現在、最後の会場となる仙台で (二〇

一五年)六月まで上演されています。

これらのショーが成功を取めたことを受け、日本に常設会場を設ける話が持ち上がりました。そして、二〇〇八年、オリエンタルランド社と提携し、東京ディズニーリゾートでZEDという常設ショーを始めましたが、日本経済に多大な被害をもたらした二〇一一年の大地震の影響で、同年末、撤退を余儀なくされました。しかし、この撤退はZEDのパフォーマンスのクオリティーとは全く関係のないことです。ZEDの映像をご覧ください。

(ZEDのショーの様子が映し出される。)

## 経営と国際本部

ここでシルク・ドゥ・ソレイユの成功についてお話します。創始者ラリベルテは、芸術性と創造性をサーカスに結び付けた才能豊かな人物であり、パフォーマーたちの能力を最大限に引き出しました。創設当時、シルク・ドゥ・ソレイユは、ケベック州政府からの援助を受けながら、ラリベルテが個人で経営したサーカスでしたが、時代の流れで経営形態が変化することになりました。つい最近(二〇一五年四月)、ラリベルテは株式の九〇%をアメリカの投資会社TPGキャピタル(TPG Capital)、中国の複合会社・復星国際(Fosun International)、カナダ・ケベック州の資産運用会社ケス・ドゥ・デ

ポ・エ・プラスマン(Caisse de Dépôt et Placement)に売却しました。ラリベルテは株式の一〇%を保有することとなり、今後も戦略面やクリエイティブ面でのアドバイスを行います。

二〇〇八年の米国を震源とする経済停滞により、シルク・ドゥ・ソレイユは数々の困難に直面してきました。その結果、いくつかのショーの打ち切りも余儀なくされました。しかし、私たちは順応性(Adaptation)と柔軟性(Flexibility)をもって、昨今の状況に対応し、進化し続けています。シルク・ドゥ・ソレイユは夢を創るという使命を持っており、今後も世界中の期待に応えたいと思っています。一九九二年より、われわれは一切公的な援助を受けておりません。

国際本部は「クリエーション・スタジオ」と呼ばれ、モントリオールのはずれのサン・ミシェル(Saint-Michel)にあります。一九九七年以降、すべてのショーの企画、創作、トレーニングがここで行われています。コスチューム・ワークショップでは、三〇〇名以上の服飾専門家がショーで使われるすべての衣装、カツラ、靴、小道具などを製作しています。この地域は「サーカス・アーツの街」です。国際本部の隣に立つTOHUという建物はサーカス・アーツの発信地であり、モントリオールをサーカス・アーツのメッカにすることを使命としています。TOHUのもう一つの使命は、北米で二番目に大規模なゴミ埋め立て造成地であるサン・ミシェル

を活性化させることです。

また、サーカス・アーティストの育成を使命とする州立サーカス高校とカレッジも同じ敷地内にあります。

### 常設ショー

常設ショーについて少し詳しく話しましょう。ラスベガスとオーランドの常設ショーは他の企業が追従できないほどの成功を収めています。

ラスベガスでは八つの常設ショーが上演されていますが、毎週一三五〇〇枚ものチケットが用意されています。Believe以外の各ショーは週に一〇回、年間四七〇回上演しています。平均稼働率は七五%です。他方で、一九九八年に

始まったオーランドのLa Noubaも週に一〇回上演し、毎週一万六〇〇枚のチケットが用意されています。ラスベガスとオーランドでの成功は、現地のリゾート会社との強い提携関係(ラスベガスのMG Mなど、オーランドのデイズニー)そして、観光客が多く集まる立地、という点が起因しています。

(ここ)で、ラスベガスの常設ショーMichael Jackson ONEやZarkanaなどのプロモーション・ビデオを見せる。) 困難にも直面しました。二〇〇八年から二〇一一年の間、

九つのショーを開始しましたが、そのうち、日本のZEDを

含め、五つ打ち切りました。ニューヨークを中心に上演したBanana Sneezeは一般の観客から良い評価を得られず、マカオで上演されたZiaと東京で上演されたZEDは世界的な経済停滞の影響と脆弱な提携関係のため、打ち切りました。また、ラスベガスで上演されたViva Elvisは特定の人々にしか来場を得られず、「映画」をテーマにした「Z」はロサンゼルスで上演されましたが、人気がなく、打ち切りました。

これらの教訓を糧に、我々は観客により愛されるショーを開発しています。

### 今後のショー

二〇一四年一月、メキシコのリビエラ・マヤでJoy(ホヤ)という新しいショーを始めました。

また、映画監督のJames Cameronと提携し、映画でヒットしたAvatar(アバター)をもとにしたSHOW TORUKを二〇一五年末、公開する予定です。そのビデオをご覧ください。

(「映画」Avatarとそれをもとにしたシルク・ドゥ・ソレイユの新作サーカスSHOW TORUKを織り交ぜたプロモーション・ビデオを見せる。)

シルク・ドゥ・ソレイユのショーは今後もどんどん進化します。日本で、ラスベガスで、ぜひ見てください。



クロード・ブルボニエール氏



シルク・ドゥ・ソレイユの映像もたくさん見せて

### 〈質疑応答〉

Q 「今後、日本ではどのようなショーが見られるのでしょうか。」(国際コミュニケーション学科二年生)

A 「現在、仙台で上演されていますOVOはまだ見られませんが、来年(二〇一六年)、T O T E M という新しいショーの上演が決まっています。また、映画アバターを題材にしたT O R U K は今年(二〇一五年)の一月からモントリオールで初上演されますが、近いうちに日本にも上陸する予定です。

なお、Z E D は常設ショーとしては撤退しましたが、アリーナ・ショーとして日本で再上演できないか、今、模索しているところです。」

Q 「日本は重要なマーケットとおっしゃっていましたが、日本人のアーティストは現在どれくらいいるのですか。」(本学アジア言語学科水野孝昭先生)

A 「Z E D にもいましたし、ラスベガスで上演されたK A には高橋典子さんというアーティストが出演していました。

またOには日本人スイマーが数名出演していましたし、LOVEやLa Noubaなど、ほとんどのショーに日本人アーティストが出演しています。現在、日本で上演中のOVOにも日本人アーティストが出演しています。」

Q 「テクノロジーの発達が著しい昨今、新しい技術、新しい提携関係と今後の可能性についてどのように考えていらっしゃるのか、教えてください。」(本学客員研究員 Jérémie Sènor 先生(オタワ大学))

A 「アメリカ TPG Capital、中国の Fosun International、カナダ・ケベック州の caisse de Dépôt et Placement といった新しい提携先がシルク・ドゥ・ソレイユに新しい風をもたらすでしょう。特に今後は中国を重要なマーケットと考えています。株式の二〇%を保有している Fosun International が今後の中国での事業展開に大きく貢献すると思われます。」

Q 「世界中からアーティストを採用していると思いますが、どのように採用し、何が採用の基準になっているのでしょうか。」(英米語学科四年生)

A 「モントリオールの国際本部にはキャスティング部門があり、世界中を回って素晴らしい人材を発掘しています。様々なスポーツの分野で活躍してきたアスリートたちに接触し、シルク・ドゥ・ソレイユに入るように説得することもあります。」

す。また、いつもアンテナを張り巡らせ、素晴らしい人材を発見したときはモントリオールに連れてきて、国際本部のトレーニング場で訓練を受けさせます。」

#### 〈講演の様子〉

高い芸術性と創造性を誇る世界的に有名なスーパー・サカス集団の中心的人物の講演とあって、当日は、クリスタルホール の定員二〇〇名を大きく上回る数の学生たちや一般の方々が来場した。本学はZEDの常設ショーがあった東京デイズニリーゾートに近いという立地もあり、ZEDの会場で働いていた、という人たちも来場した。講演は英語で行われ、通訳のかわりに日本語による講演内容の要旨が配布された。来場者たちはシルク・ドゥ・ソレイユの全体像について理解を深めるだけでなく、日本ではまだ公開されていない次回「アバター」のプロモーション映像を見る貴重な機会も得た。

講演当日は、台風六号が関東に接近するなか開催され、講演開始から四〇分を経たところで、校内アナウンスで授業(講演)を中断し、全員帰宅するよう、指示があった。来場者たちは、惜しみながら、最後に集合写真に収まり、ブルボニエール氏に握手とサインを求める長い列をなした。





講演終了後、サインと握手を求める学生たち



講演終了後の集合写真